

文部科学省 第15回 主権者教育推進会議

大学段階における主権者教育と教員養成の在り方

2020年12月7日(月) 16:00～18:00

小玉重夫
(東京大学)

本報告の構成

- * 1 探究の時代と高大接続改革
- * 2 全学共通カリキュラムでの実施例(立教大学で)
- * 3 教職課程(教員養成課程)での実施例(慶應義塾大学で)
- * 4 課程外(カリキュラム外)での実施例(東京大学で)
- * 5 まとめ:**萎縮しない**主体性の重要性

1 探究の時代と高大接続改革

幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」2016. 12.

学習指導要領改訂の方向性

新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性の涵養

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む

「社会に開かれた教育課程」の実現

各学校における「カリキュラム・マネジメント」の実現

何を学ぶか

どのように学ぶか

新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた
教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共」の
新設など

各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構造的に示す

学習内容の削減は行わない*

主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・
ラーニング」）の視点からの学習過程の改善

生きて働く知識・技能の習得
など、新しい時代に求められる
資質・能力を育成

知識の量を削減せず、質の高い
理解を図るための学習過程
の質的改善

主体的な学び
対話的な学び
深い学び

探究の時代

- * これからは・・・
- * 「問題を解くsolve the problem」時代 から、
- * 「問題を考えるthink about the problem」時代へ

教育と研究の結合

- * 1877-1945 教育と学問の区別
- * 1945-2019 (学問)教育と(学問)研究の分離(高校までは学習、大学から研究)
- * 2020- 教育と研究の結合、**探究から研究へ** 乳幼児期から中等教育までの探究が、大学における研究の変革を促す、その担い手としての研究的マインドをもった児童生徒を育てる。
- * 大学教育の課題：**高校までで培われた探究心を正解主義の圧でつぶさない** cf.NHK「不可避研究中」選挙に行こうの“圧”がツライ!?! 2020. 11. 27. 放映

大学教育を改革する鍵

- * 全学共通常カリキュラム(→2)
- * 教員養成課程(教職課程)(→3)
- * 課外活動(→4)
- * 以下では、報告者(小玉)が大学で担当している授業や実践から、上記3点に該当する実施例を紹介する。

2 全学共通カリキュラムでの実施例（ 立教大学で）

2017年度立教大学「シティズンシップを考える」

シラバス概要(小玉担当)

9. 29 ガイダンス

10. 6 衆院選と政治教育 グループごとのテーマ決め

10. 13 明推協の金井壮太さんの話

10. 20 グループからの発表

10. 27 発表の振り返り

11. 10 ハンナ・アレントと『全体主義の起原』

11. 17 「桐島、部活やめるってよ」とスクールカースト

11. 24 『あまちゃん』に見るアマチュアリズム

12. 1 映画「ハンナ・アレント」をもとに市民のあり方を考える

12. 8 高校生と政治について考えるテーマを議論する

12. 15 上記テーマについてどのような争点を設定するか考える

1. 12 高校生(香蘭女学校)との交流、討論

1. 19 同上

12/8

テーマ決め

想定される
論点

A	B	C	D	E	F
テーマ: 教育	米軍基地の問題	テーマ: ハロウィーンは拡大が否か	テーマ: 地球温暖化 or 寒冷化	テーマ: スクールカースト	基地問題は税金関係
論点: 授業料無償化について	① 憲法違反 ② 早期英語教育 (高校義務教育化など)	論点: 経済的に見るとどうか モラル的に見るとどうか ゴミ問題について 日本語が身に付く前に英語を学ぶべきなのか	論点: 温暖化なのか 寒冷化なのか 温暖化の歴史 温暖化対策 企業や研究者は利益のために温暖化を唱えているのか	論点: 大学、高校の違い なぜスクールカーストが生まれるのか? スクールカーストの中で生き抜くには、どうすれば無くなるのか?	〇物販抜き 〇増税 or 減税 〇最高に使

<p>F 基地問題 税金関連</p>	<p>G <テーマ> 差別問題 特に在日外国人</p>	<p>H テーマ 人工知能</p>	<p>I テーマ 校則</p>	<p>J テーマ SNS</p>	<p>Skodam</p>
<p>ト ○物販すべきなのか ○増税or減税 ○最適な使い道は? 生かすには、 長くなるか?</p>	<p><論点> ○差別に対する気持ちは? ex) 韓国の人 ○AIと人間に共感できる ところはあるか? ○中立的な報道の仕方 打つべきか ○差別はやり続けるか なくせるか</p>	<p>○人工知能の 発展による 社会的進 歩について ○人の仕事が なくなるか ○誤作動や事 故が起きた 場合、どこに 責任がいくのか</p>	<p>論点 ex) 制服 髪の色 論点 黒髪でいか なければなら ないのか 制服が指定 されるのは何 が</p>	<p>個人情報の 提供範囲 (鍵アカに よる) 次世代に流行る SNS は? インスタ映えする写 真を撮り、 登稿するのはどう か。</p>	<p>@p.u-</p>

香蘭女学校ホームページより

<http://www.koran.ed.jp/topics/topicsarchives/20170128/>

高等科3年生特別プログラム高大連携 – シティズンシップ 2018年02月12日
掲載

今年度も三学期に高等科3年生の特別プログラムが始まりました。

昨年度からこの高等科3年特別プログラムに新たに加わったのが高大連携の授業です。そして今年度も昨年度同様、立教大学サービスラーニングセンターの講義「シティズンシップを考える」（小玉重夫教授）に参加しています。自ら行動する市民を育成するための講座ですが、その名の通り、色々な社会問題について大学生と一緒に考察をし、議論・意見交換をします。

初回の1月12日は立教大学の学生から話し合いのテーマと意見が提示され、19日には香蘭生側から新たな視点や解決策の提案を行いました。昨年度は「18歳選挙権について」「SNS教育について」などがテーマでしたが、今年度の話し合いのテーマには「授業料の無償化」「早期英語教育について」「沖縄の基地問題」「ヘイトスピーチを考える」といった様々なものがあり、高校生と大学生という違う立場からの意見交換を行いました。

今年度は大学生側として参加している学生の中に香蘭女学校の卒業生が数人いて、高等科3年生には卒業した上級生たちと話す良い機会にもなりました。

今年度も参加者のうちの2名が、3月に行われる日本シティズンシップ教育フォーラムにて発表を行うこととなります。



2019年度の授業から 立教大学サービスラーニングセンターホームページより

https://twitter.com/rikkyo_rsl/status/1189354600274563073



立教大学サービスラーニングセンター(RSLセンター)

@rikkyo_rsl

...

#シティズンシップを考える (小玉重夫先生)では「お笑いを通じて社会問題を発信したい」という、これまでと違ったアプローチから社会問題をとらえる #たかまつなな 氏をゲストスピーカーとしてお迎えしてご講演いただきました。ありがとうございました！

#立教大学サービスラーニング #サービスラーニング



3 教職課程(教員養成課程)での 実施例(慶應義塾大学で)

学校カリキュラム論(教育課程の意義及び編成と特別活動の指導法)2020年度

- * 学校カリキュラムの全体構造を、特別活動(教科外教育)の指導法、総合学習の位置づけを視野に入れて説明し、その実践的な改革の視点を示す。それによって、教育課程(カリキュラム)の意義及び編成のための基礎的な知見を深め、教育課程を学校改革の不可欠の構成要素として意識できるようにする。近代学校についての歴史的、構造的な理解がそのための前提となる。学習指導要領改訂の方向性を展望しつつ、18歳選挙権の時代の政治的リテラシーやシティズンシップをめぐる実践動向にも配慮し、カリキュラム・イノベーションの方向性を考えることを課題とする。社会情勢の変化によってシラバスの内容を変更することもある。また、受講者をグループ分けし、グループで分担して発表や模擬授業をしたり、グループでのディスカッションをしたりすることを予定しているので、受講者の積極的な参加を期待したい。

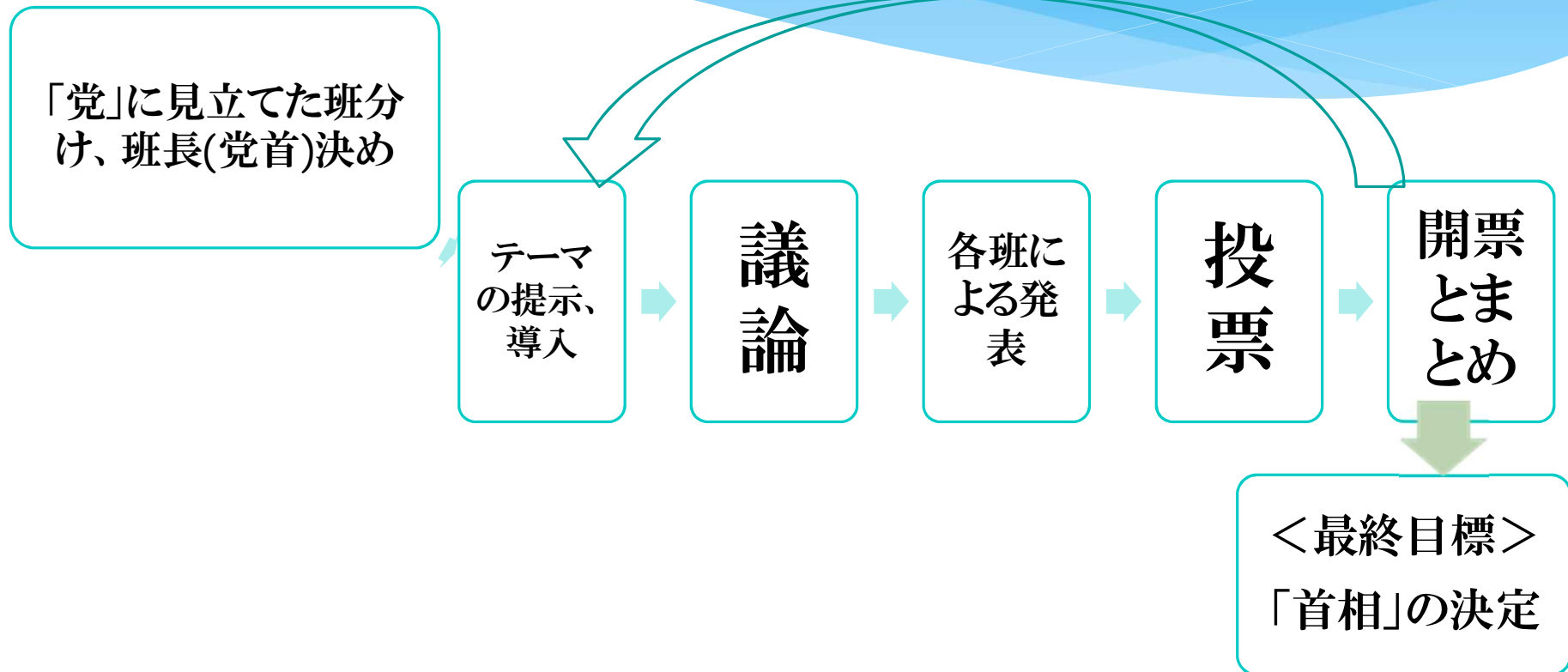
学生が行った授業案の報告事例

1班 「総合的な探究の時間」 年間授業計画 (35週)

テーマ：「首相」の決定を最終目標とした模擬政党活動

第1週	導入と班分け、班長(党首)決め	第19週	各班の発表、投票
第2週	問題提起と各班のコンセプト決め	第20週	開票とまとめ
第3週	「校則」をつくる 導入	第21週	日本を少し良くする政策づくり 導入
第4週	議論	第22週	議論
第5週	議論	第23週	議論
第6週	発表準備	第24週	発表準備
第7週	各班の発表、投票	第25週	各班の発表、投票
第8週	開票とまとめ	第26週	開票とまとめ
第9週	実際の政策の比較検討と模擬投票 導入	第27週	クラスの「首相」決め 導入
第10週	議論	第28週	議論
第11週	議論	第29週	議論
第12週	発表準備	第30週	発表準備
第13週	各班の発表、投票	第31週	各班の発表、投票
第14週	開票とまとめ	第32週	開票とまとめ
第15週	生徒たちによる街づくり 導入	第33週	授業振り返り
第16週	議論	第34週	講演の依頼等
第17週	議論	第35週	予備日程
第18週	発表準備		

授業案の概要



4 課程外(カリキュラム外)での 実施例(東京大学で)

東京大学 フィールドスタディ型政策協働プログラム 専門知と地域をつなぐ架け橋に

社会的課題に果敢にチャレンジするリーダー人材の育成を目指し、2017年にスタート。

- * 協力自治体から学生に、地域における課題を提示。昨年の2019年度は、11県(青森、山形、石川、福井、長野、三重、鳥取、島根、高知、宮崎、鹿児島)15地域の課題について、学生が取り組んだ。
- * 学生はチームを組み、投げかけられた課題に対して事前調査や活動計画の立案等を行った後、地域の現場に入る。
- * そこで現状について身をもって体験・把握して大学へ戻り、課題解決に向け、自ら考え、または知見を有する学内の教職員等の協力を得て、その糸口を探る。
- * これらの事前調査、現地活動、事後調査を通じて、一年をかけて課題解決への道筋提案を行う。

飼い慣らされない主体性

1 飼い慣らされない主体性を支える三要素

好奇心 他者に対するいい意味での警戒心のなさ 聴くちから

2 「上から目線」からの脱却

・課外活動なので、上からではなく斜めから社会を見ている層の東大生をマグネット的に吸引するプログラムになっている。

・自治体と東大生という2つの層がつながることで想定外の関係変容がもたらされることがこのプログラムの可能性

東大からの自治体変革 自治体からの東大変革 双方向性

・学生にとってのもう1つの帰る場所になっている。

詳細は、小玉 重夫教育学研究科 教授／社会連携タスクフォース
体験型活動ワーキンググループ 座長「フィールドスタディ型政
策協働プログラムとは何か」 (<https://fsi-event201017.org/>) (2020
年10月17日 東京大学FSIバーチャルシンポジウム) を参照



対談企画：フィールドスタディ型政
策協働プログラムに参加して

秦 暁語・川瀬 翔¹子／小玉 重夫教授

5 まとめ：**萎縮しない**主体性の重要性

萎縮しない主体性を培う

- * 以上でみてきたような全学共通カリキュラム、教職課程、課外活動を突破口にして、大学の研究教育の構造を高大接続改革の趣旨に沿うものに変革する。
- * **論争的な課題**に果敢に取り組み(バーナード・クリックの「争点を知る」)、生徒も教師も、それを前にしても**萎縮しない**。
- * 正解主義の圧から解放され、**答えのない問い**と向き合う探究的主体性を備えた市民の育成。
- * 教職課程のコアカリキュラムに主権者教育の観点を盛り込む。

ありがとうございました。

To Be Continued.....